

# 黒松紙器 株式会社

事業計画名

インバウンド効果などで需要が高まる、和菓子などの化粧箱の生産能力向上計画



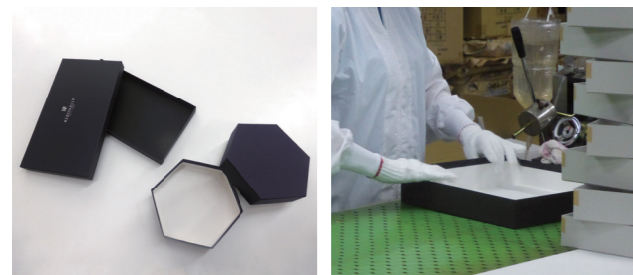
## 古くは木板に和紙を貼る装飾の「貼り箱」 日本らしい“おもてなしの心”を形に

―事業の背景―

### 日本らしい美しさと高級感を兼ね備えた「貼り箱」

従来、和菓子業界において「おかき」「あられ」等の贈答容器は、中身を保護する頑丈さと要求される深さから、紙箱より缶箱を使用されることが多かった。しかし、近年は缶の処分が難しいなどの理由から、缶箱より外観が美しく高級感がある貼り箱が好まれるようになっている。

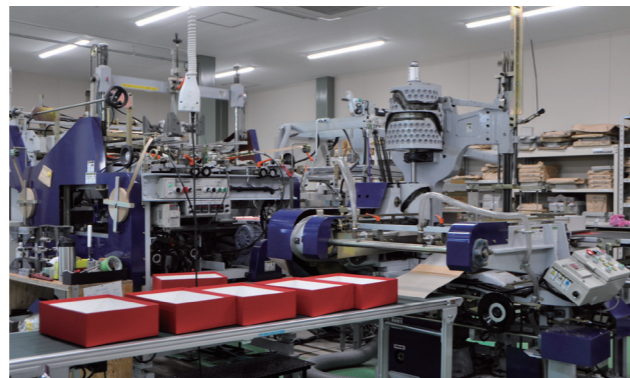
また、貼り箱に入った和菓子類は「日本らしいお土産」として外国人観光客からの人気が高い。そこで、海外生産が多い缶箱より、日本の名産として国内産の貼り箱で統一したいと考える取引先も多く、深型・大型の貼り箱の供給体制強化と品質向上を目指し、本事業の実施を行った。



―事業の成果―

### ボトルネックの解消と品質向上

貼り箱製造において、深いサイズや大きいサイズのものには製造ラインが対応しきれず、一部手作業による加工が必要であり、生産能力のボトルネックとなっていた点に加え、ズレや反りといった不良率の発生要因でもあった。本事業において深型・大型対応の自動製函機を導入することで、手作業工程が機械化でき、生産リードタイムを約5割短縮することができた。加えて、手作業で発生していた不良率においても低減が認められ、生産品質・信頼性の向上が実現した。



## ―黒松紙器株式会社の概要― 創業70年に迫る歴史と経験

当社は1952年創業で、当初は靴下箱を主に製造していたが、1980年に法人化したことをきっかけにギフトパッケージ分野へ進出。以降、陶器・素麺・和菓子など的高級ギフトパッケージを目指し、試行錯誤してきた。



常に目線を変えて設計を見直し、「箱は四角」という概念に捕らわれず、多角形の箱へも挑戦し、中身となる商品のイメージアップに繋がるような顧客満足度を引き出す工夫・提案を行っている。



―黒松紙器株式会社の強み―

### 自動製造ラインを保有し、短納期・大口ロットにも対応可能

現在、貼り箱製造業者で当社のように自動製造ライン(印刷・裁断・組立・加工まで一貫した機械化生産体制)を保有している業者は全国約1,300事業所の内1割ほどと少なく、本事業で導入した「深型」対応の自動製函機まで導入している業者は殆どいないため、短納期・大口ロット仕様への対応力は非常に高いと考える。

さらに貼り箱製造工程の中で、「抜き加工」に使用する生地木型・製函木型などは自社で内製しており、低コスト・短納期を実現する要素の1つとなっている。特に納期は他社の3～4割程度の日数で実行が可能。加えて、内製化することで少量多品種の仕様にも柔軟に対応が可能である。

貼り箱は製造時点で立体に組み立てられるため、納品前後における保管スペースの問題があるが、当社は自社内に保管スペースを保有している。そのため、当社製造品であれば、倉庫コストなどが製品サイズへ影響せず、顧客の理想とする仕様を実現することが可能である。

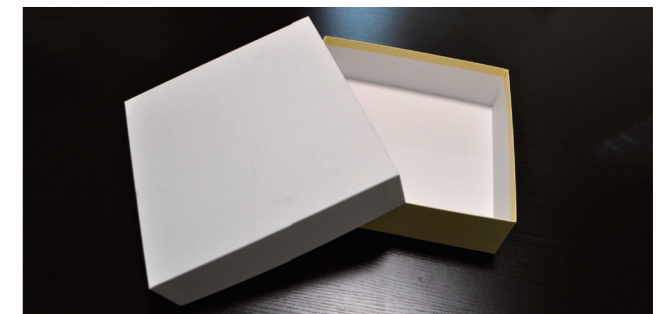
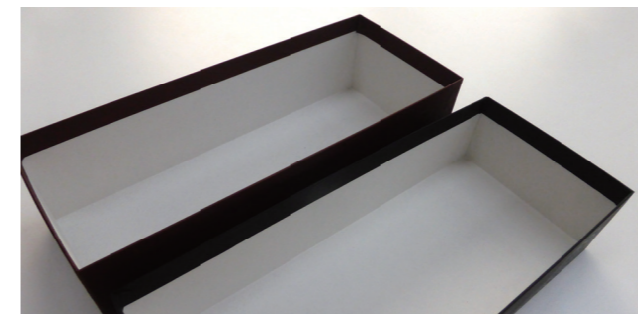


―今後の展望―

### V字カットへの対応

貼り箱は、その高級感・美しさ・汎用性から、和菓子などの食品関係だけでなく、化粧品や衣類・雑貨など多種多様の品目に対して包装材料としてのニーズがある。近年は通常の貼り箱だけでなく、オーディオ機器の包装材料に使用された「V字カット」と呼ばれる手法で製造され

た鋭角な角を持つ貼り箱のニーズが増加しており、当社も今後早期に「V字カット機」を導入し、このニーズに対応していく生産体制を構築したいと考えている。合わせて、製品の企画提案・設計・デザイン作成などワンストップでの事業展開を実施していきたいと考えている。



## 黒松紙器 株式会社

業種分類 パルプ・紙・紙加工品製造業  
事業内容 各種パッケージ企画製造

代表者名 代表取締役 黒松 宏史  
所在地 奈良県香芝市高93  
連絡先 TEL : 0745-76-3633 / FAX : 0745-76-7061  
ホームページ 制作中  
E-MAIL k-shiki@zeus.eonet.ne.jp